

昭和興産は1月から3月の中期経営計画「SK | CHALLENGE」を推進している。計画初年度の今年度は設定した予算を達成する見通しで、今後も既存事業の拡充に加え、環境関連や情報・通信など5つの成長分野を強化することで中計の目標達成を目指す。

同社の2021年度上半期(1~6月)の業績は主要4部門すべてが好調に推移し、総売上高は前年比13%増加した。主要部門のなかで合成樹脂は自動車、電線、建材関連用途が伸長、化学品も好調で、産業資材、情報電子も前年実績を大きく

## 昭和興産

# 成長分野強化、中計達成へ

く上回った。好調だった19年度レベルの業績へと回復しており、通期では総売上高で前年比で20%近い増加を見込む。

SK | CHALLENGEでは海外関連ビジネスの強化、既存事業基盤の強化、成長分野への挑戦の3項目を柱に、創立80周年の23年度に売上高880億円の達成を目標としている。

21年度は予算達成を見込んでおり、引き続き主要取引先との協働、輸入商材の拡充と新規ビジネスの育成に努め着実な成長を狙う。

重点戦略分野と位置づける環境関連、情報・通信、メディアカル・ヘルスケア、国内インフラ、モビリティについては、5テーマも今後の成長が見込まれ、すでに事業の芽が出始めているビジネスもあることから引き続き注力する。

海外展開ではベトナムなど東南アジア諸国での新型コロナウイルスの感染拡大の影響が懸念されるが、この上半期はすでに予算を上回る実績を計上した。今後

も各地の状況を見定めながら事業展開を進めていく。中計の経営基盤戦略においては、環境配慮商品への注力、女性活躍推進プロジェクトなど働きやすい職場環境向上への取り組み、コンプライアンス徹底などESG経営をより進めていくとともに、災害などを考慮したBCPの観点からデジタル化・ICT化にも力を注ぐ。